「ナナメの関係」を意識した進路指導

－進路指導に活かすピア・サポート活動－

竹内和雄
（寝屋川市教育委員会）
池島徳大
（奈良教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程）

Career guidance awared of “Diagonal relationship”
－Peer support activities to take advantage of career guidance－

奈良教育大学　教育実践開発研究センター研究紀要　第21号　抜刷

2012年３月

「ナナメの関係」を意識した進路指導
－進路指導に活かすピア・サポート活動－

竹内和雄
（寝屋川市教育委員会）
池島徳大
（奈良教育大学大学院教育学研究科専門職学位課程）

Career guidance awared of “Diagonal relationship”
－Peer support activities to take advantage of career guidance－

Kazuo TAKEUCHI
（Neyagawa-city board of education）
Tokuhiro IKEJIMA
（School of professional Development in Nara University of Education）

要旨：本研究は、これまでに取り組んだピア・サポートの手法を用いた進路指導事例を振り返り、その導入の方法や利点･課題等について検討することを目的とした。これまでの進路指導は、教師が生徒に一方的に進路情報を提供し、指導することが行われてきた（縦の進路指導）傾向がある。しかし生徒たちは、インフォーマルな場面で、生徒同士が進路についての悩みや不安を共有する場面（横の進路指導）が見られるのが普通である。本研究では、両者の特性を活かし、「ナナメの関係」を重視し、ピア・サポートの視点から新しい進路指導のスタイルを検討した。先輩の進路に関する文章や語りがどのように児童生徒に伝わり、有効に働いていったかについても検証を試みた。

キーワード：進路指導 career guidance　開発的生徒指導 developmental student guidance
ピア・サポートpeer support　自己有用感 self sense of usefulness

1．問題と目的

中西ら（1981）は、生徒指導の一環として進路指導は重視されるべきものであるとし、「進路指導は、自分の将来の生き方の面から現実の職業的発達や自己指導にせまり、ともに人格のよりよき発達、社会的自己実現を図る生き方の指導」として、教育課程の中で確立していく必要があると述べる。また、内藤（1991）は、「『人間としての在り方』は生徒指導に直結し、『人間としての生き方』は進路指導そのもの」であると指摘し、「この人間としての在り方・生き方は『いかに生きるか』という路線で一体化している」という。

現在、高等学校等進学率は、文部科学省学校基本調査（2011）※1によると98.2％で、ほとんどの中学生が進学している。中学校学習指導要領（2008）では、特別活動における学級活動の内容の「学業と進路」において、「ア 学ぶことと働くことの意義の理解」「イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用」「ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用」「エ 望ましい勤労観・職業観の形成」「オ 主体的な進路の選択と将来設計」を挙げている。特に「ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用」の具現化の方策として、「自己の個性の理解に基づいて、自分のよさを発揮し、個性を伸ばす進路を探索するために、当面する進路に関する情報を収集し、整理する必要性」を指摘している。

しかし、第５回学習指導基本調査（小学校・中学校版）（2011）※2によると、中学校教員の多くが進路指導に困難さを感じていることがわかる。「進路を決めきれない生徒が多い（68.8％）」「現実味のない進路希望を抱く生徒が多い（59.4％）」「高校の入試制度が複雑（52.1％）」など、生徒・教員ともに十分な情報が得られていない。また、中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査（2007）※3によると、中学校卒業生の50.9％が指導してほしかったこととし

て「自分の個性や適正を考える指導」を挙げている。以上から、中学校における進路指導が十分に機能していない側面もあることが指摘できる。

生徒たちの進路は年々多様化しており、これまでのような、教師による進路指導（本論では「縦の進路指導」と呼ぶ）だけでは限界がある。これからの進路指導においては、このような困難さの解決の一助としてお互いの進路上の悩みを共有し、自由に自分の進路について語り合う取り組み（本論では「横の進路指導」と呼ぶ）が必要だと思われる。人間関係形成能力が乏しくなってきていると言われる今日、ピア（仲間）同志の結びつきを強める取り組みが益々必要である。

ところで、笠原（1977）は、「叔父－甥」のような「中立的関係」を「斜めの関係」とし、「タテ軸に位置する親や教師」や「ヨコ軸に位置する同輩友人」の「中間位置する“間”の関係性」と規定している。この点に着目した枝廣（2010）は、「中学生と高校生、中学生や高校生と大学生の間に上下関係のない『異年齢間の中立的関係』がある」とし、このような「近い年齢差においてもタテとヨコの“間”の『斜めの関係』は存在しうる」とし、笠原（1977）の「斜めの関係」と区別するため「ナナメの関係」としている。

本稿では、子どもたちに「生きる力」を育むための進路指導のあり方を検討するために、ピア・サポートの手法を用いた「ナナメの関係」を意識した進路指導を展開し、その取り組み事例を振り返りながら、その導入の方法や利点・課題等について検討する。

特に、先輩の文章、言葉がどのように子どもたちに伝わり、有効に働いていったのかについて検証を試みる。児童生徒が進路全体を見渡すメタ認知の力を向上させることをねらいとした。

2．方法

1）研究の概要

①研究対象　大阪府公立A中学校区

A中学校約650人 B小学校約300人 C小学校400人

②研究時期　2004年～ 2006年

③研究内容　ピア・サポートの手法を用いた進路指導のあり方と課題

④研究組織

・A中学校生徒指導委員会

A中学校管理職、生徒指導主事、進路指導主事、教務主任、学年主任、計8人で構成

・A中学校区子ども支援会議

A中学校区小中学校生徒指導、生活指導担当者、計10名で構成

⑤校区概要

研究対象とした中学校区は、2002年から中学生が校区の小学生に紙上で悩み相談に乗る「紙上ピア・サポート活動」（竹内,2009）に取り組んでおりその活動の延長として、進路指導に活かすピア・サポート活動に取り組んだ。

2）研究計画

進路指導に活かすピア・サポート導入に際し、以下のような3年計画を立てた。1年ごとの到達目標を示したが、あくまで大まかな目安とし、各学校の進捗状況に合わせて柔軟に対応することとした。以下、３期に分けてその活動の概要を示す。

①中3ピア・サポート進路支援導入期（1年目）

中学3年生が中学1、2年生に対して、紙上で進路に関する情報提供を行う。具体的には中学3年生が進路選択の経験を後輩に対してメッセージを「生徒指導だより」に掲載することとした。なお「生徒指導だより」の作成は筆者（竹内）が行った。

②卒業生ピア・サポート進路支援の展開期（2年目）

卒業生が在校生に対して、自分の現在の生活の様子を話す機会を設定する。具体的には、卒業生が卒業後に感じた進路選択の重要性や意義について話す機会を作り、今後「進路フォーラム」の定期開催を設けることを目標とした。

③校区全体ピア･サポート進路支援の発展期（3年目）

これまでのピア・サポート進路支援を中学校だけにとどまらせず、校区の小学生とも共有することで、発達に即した進路指導のより一層の深化を目指した。さらに中一ギャップ解消の一助とすることも計画に織り込んだ。

3．結果と考察

1）中3ピア・サポート進路支援導入期（1年目）

中学3年生の3学期に「後輩に送る言葉」として募集した作文を筆者（竹内）が活字にして「生徒指導だより」に記載した。本人、保護者の承諾を得ることができた文だけ記載することにしていたが、匿名希望は皆無であった。一部を校区の小学校でも配布したところ、好評であったので、A中学校区すべての小中学生に配布した。

以下に実際に掲載された生徒の文章を示す。

①3年生B男の文章

今からがんばるか、それとも3年になってからがんばるかの違いは、マラソンの最初の数百メートルを歩くか、走るかの違いに似ています。手を抜けば、他の人との差が大きく出てきて、もう取り返しがつかなく

なります。

②3年生C男の文章

自分の今はダメだ。正直、もう自分を変えなくちゃと思っている。僕は、サッカー部をやめてしまった。たかが友達とけんかしただけで一度やめてしまった自分がなさけなく思う。勉強面では、塾に行っているからって、家での勉強時間が少なくなった。だからテストの点数も減っている。塾と家の勉強を両立できたら、20点か30点くらい増えていると思う。だから、今から遅いかもしれないけれど頑張ろうと思う。やっぱり高校にも行きたいし、中学校卒での就職は難しいと両親から聞いているのでやっぱり高校に行きたい。今までの自分は中途半端にいろいろなことをやめてきた。だから、これからの自分は勉強面を全て…は無理かもしれないけれど、やらなかったら何も始まらないから、受験勉強だって少しずつやっていこうと思う。

配布した「生徒指導だより」を、1、2年生は熱心に読んでいた。それ以上に、「後輩に送る言葉」として3年生自身が真剣に読んでいた。み、学校全体で読むよった。

しかし、先輩から後輩へ一方向の取り組みだったので、次年度から、後輩からの質問に先輩が答える双方向形式に次年度から取り組むことになった。

2）卒業生ピア・サポート進路支援の展開期（2年目）

2年目の中学3年生は、前年度に先輩からメッセージを受け取っているので、取り組む姿勢が目に見えて向上した。

そのことは、掲載希望の文章の提出が前年度の214枚から788枚に増加したことに現れている。また後輩から先輩に聞いてみたいことを最初に書いてもらい、それに中学3年生が応えたことを記載したことによって、具体的な生きた文章になった。

また、「進路フォーラム」を開催し、卒業生にも学校に来てもらって、後輩生徒の前で自分たちの今の生活を話してもらう取り組みを始めた。地域の進学校だけでなく、専修学校や職業訓練校等、様々な学校の卒業生に来てもらったため好評であった。

特に在学中、生活態度に課題があった生徒の話には説得力があった。

以下はA中で実施した「進路フォーラム」の概要である。

進路フォーラム概要

名称　A中学校進路フォーラム
日時　2005年10月29日（土）
場所　A中体育館
時間　土曜参観のあと実施（保護者も見学）
話者　A中卒業生9名
　　高校1年生3名、高校2年生3名、高校3年生4名
内容　講話（私の高校生活）各5分
　　質疑20分

①卒業生D子が語った言葉

私はA大学の附属高校に通っています。大学進学は決まっているので、みんなのんびりしています。授業ではフランス語とかもあり、難しいですが楽しいです。

②卒業生E男が語った言葉

僕は体育科です。クラブはラグビー部です。予想していたよりずっとつらいし、通学も時間がかかりしんどいです。でもラグビーが本気で好きだから、辞めずに頑張ってます。中途半端な気持ちだったら辞めた方がいいですが、本気な人には最高です。進路は、体育大学とかに行って、体育の先生を目指す人が多いです。

③卒業生F男が語った言葉

俺は3年前に卒業したE男。今、専門学校3年で、自動車整備の資格を取ろうと頑張っている。君らに言いたいことは高校へは誰でも行けるけど、かんじんなのは、高校で3年間、続けることができるかどうか。残りの中学校生活で、まじめに勉強する癖をつけることが一番大事。俺は、中2までサボってたから、3年の最初は、計算も英語も基礎からさっぱりだめだった。

でも、俺はできないなりにがんばった。ノートは絶対、ちゃんと書いてたし、授業抜けたりしなかった。ノート書いてても、全然意味わからんかったから、最初は『何の意味があるねん』と思ってたけど、我慢して、1年間、ちゃんと書いた。それが癖になって、高校生になった今、すごく役にたってる。途中で、高校やめた奴もいっぱいおるけど、俺は卒業できそうや。

授業中、時々、うるさくしたら、女子や先生に怒ってもらって頑張った。自分らも、自分のためにこの一年頑張れ。頑張ったら、絶対いいことあるで。

3）校区全体ピア・サポート進路支援の発展期（3年目）

取り組みも3年目を迎え校区に定着し、書かれる内容も、表面的なものから具体的で示唆に富む内容が多くなってきた。また、進路に関わることばかりであったが、徐々に生活全般に、多方面の記述に変わっていった。不登校の経験を赤裸々に記載する生徒も出てくるなど、読み応えのある文章が増えた。

3年目の中学3年生は、入学したときから先輩からのメッセージを受け取っているので、スムーズに取り組む姿が印象的であった。掲載希望の文章の提出は合計1012枚になった。

この年から、「生徒指導だより」を校区のすべての小中学生に配布するようになった。小学校では、児童以上に、保護者・教職員に好評であった。

①3年生G子の文章

私は2年のときに理由があって、学校に来ていませんでした。3年になって、進路にも響くので、学校に来るようになりました。だけど、休んだ分、授業についていけず、授業をさぼったりしました。さぼった分、また、わからなくなり、どんどん時が過ぎていき、今はもう3年の12月です。

ついこの間も、実力テストがありましたが、全くわからず点数も悪かったです。そういう私の体験から、2年の人には「今、2年のときに一生懸命がんばって3年になってから楽に勉強してほしい」と言いたいです。

---

②3年生H子の文章

私は1、2年のとき、授業中に友達としゃべったり、手紙を書いたりしていた。テストの点数も悪かった。その時、「受験までまだまだやし、3年になったらがんばったらいい」と思っていた。3年になっても、悪い癖は直らず、後悔しています。1、2年の時にがんばってやってたらよかったと後悔しています。1、2年生は、授業をしっかり聞いて、提出物もちゃんと出してホンマにがんばってほしい。

---

③3年生I男の文章

僕は今、高校のことについて色々と悩んでいることがあります。まずその一つは、高校に行っても野球を続けるかどうかということです。僕は野球がとても好きだし、僕に一番、あっているスポーツだと思います。

試合に勝ったりすると、本当に野球をやっていて良かったと思います。しかし、練習のきついときなどは、僕は何でこんなことをしているんだろうと思います。しかも、中学校と高校の練習では、はるかに高校の練習のほうがきついと聞いています。だから、僕は、もし野球を続けても途中でやめたりしないだろうかと思ってしまいます。途中でやめるくらいなら、最初から他の部に入っているほうがましです。

だから僕は毎日、本当に野球を続けていけるかどうかを、自分の頭で想像して考え、悩んでいるのです。

---

④3年生J男の文章

最近はA中では聞かんけど、いじめとか、むかしはあったやん。おれも正直にいうと1年のときに、いじめとか、やってた側に入っててん。でもな、ホンマ、3年になって、自分がいじめとかやってたんとか思い出すと、今、めっちゃ後悔してんねん。

だって、いじめとか、「ガキ」みたいやし、いじめるやつはただの「へたれ」やん。だから、1、2年の中で、いじめとか、調子乗ってやってるやつ、もしおったら、やめたれよ。まあ、おれら3年はもう卒業やけど、1、2年のみんなは、勉強と人間関係、ともにがんばってな。

「生徒指導だより」が小学校の学級会で紹介されるなど、校区全体で活用された。また、バス停や地域の掲示板に掲示されたり、卒業生からの近況報告も掲載されるなど、校区全体の文化づくりに貢献した。

また、在校生の具体的な進路の質問に卒業生が答える制度が自然発生的にできあがった。先輩に教えてもらった経験のある生徒が卒業していくと、「次は自分が答える順番」と親身になって答えていた。

正にピア・サポートの理念が校区全体に根付いていると感じた。

4）教員、保護者の評価

①教員の感想

・「実際の先輩の体験なので、生徒たちの反応がとてもいい。」中2担任

・「校区全体に自分の名前で載るので、『書いた責任』が発生し、3年生にも自覚が芽生える。」中3担任

②保護者の感想

・「中学生の気持ちがわかり、子育ての参考にさせていただいています。」小2保護者

・「食卓の話題によくなる。うちの子はまだ中1ですが、受験について何となく意識しだしているようです。」中1保護者

教員、保護者、生徒ともに、「ナナメの関係」の進

路指導に利点を述べている。身近な先輩の言葉に素直に受け入れることができる様子がよくわかる。

また、効果が上がっているのは、読んでいる後輩だけでなく、書いている先輩にとっても、自己有用感が高まっている様子がわかる。

4．全体的考察

1）モデリングからメタ認知へ

先輩の文章や言葉を聞き、モデリングすることを通して、児童生徒は自分の進路について早い時期から考えることができたようである。導入期から発展期へ向けて、児童生徒の進路に対する意識は高まった。特に、発展期の3年生の文章が深い内容であったが、彼らは1年生の時から「生徒指導だより」を読んできた生徒で、2年間のモデリングの効果であると考えられる。

生徒の感想

「先輩の文章を読んでいると、頑張らなくっちゃと思う。」中1生徒
「自分たちの経験が後輩の参考になったらうれしい。実際名前が載ったらうれしいし（笑）」中3生徒
「中学校の先輩の文章を読んでいて、とても勉強になります。ちゃんと授業を受けて、頑張ろうと思います。」小6児童

2）小学生への影響

校区の小学校に「生徒指導だより」を配布したので、小学生への影響も大きかった。児童自身以上に、保護者への影響が大きく、各家庭の話題になっていたようである。

3）中学生への影響

自分の知っている先輩の声であるので、モデリングしやすく、進路決定に大きな影響を与えた。読み手だけでなく、書いた本人たちにも良い影響を与え、学校全体が温かい雰囲気になった。

4）教員への影響

A中学校区全体で子どもたちを考えるようになったことが最も大きな影響であった。特に小学校の先生と中学校の先生が「生徒指導だより」という共通の話題を持つことの意味は大きい。特に小学校の先生が中学生の文章を通して、中学校の進路について知ることは、小中連携を進めていく上で好影響を与えた。

5）保護者への影響

小学生の保護者に、中学校の進路指導について知ることができると好評であった。中学生の保護者にとっても、不安に思ったり、悩んだりしている多くの中学生の文章を読むことで、自分の子どもへの接し方を考えたと話す保護者が多かった。

6）教員の相互支援体制の必要性

この取り組みでは、中学生約650名と小学生約700名の「生徒指導だより」を中学校ですべて印刷し、各小学校へ運んで配布した。小学校と中学校の教職員が協力して取り組むようにできればさらにスムーズだと考えられる。

7）「ナナメの関係」を意識した進路指導の重要性

この取り組みから、「ナナメの関係」を意識した進路指導の重要性やニーズの大きさがわかった。特に、前出の作文の通り、「先輩の文章を読んでいて、とても勉強になります。ちゃんと授業を受けて、頑張ろうと思います」と校区の小学生が思っていることの意味は深い。先輩をモデルとして、自分の将来について考えているのである。

しかし、学年、学校を超えた取り組みであるので、ノウハウが充分に確立されておらず、一部の教職員に負担がかかってしまったのも事実である。

今後は、この取り組みを１つの中学校区の特別な活動にとどまらせず、他の中学校区でもスムーズに取り組むことができるように、「ナナメの関係」を意識した進路指導モデルの構築に取り組んでいきたい。

注

※１　学校本調査 http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/icsFiles/afieldfile/2011/08/11/1309705_1_1.pdf 文部科学省 2011年11月18日

※２　第５回学習指導基本調査（小学校・中学校版）http://benesse.jp/berd/center/open/report/shidou_kihon5/sc_hon/pdf/data_12.pdf　ベネッセ教育研究開発センター 2011年11月18日

※３　中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査　http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21chuugaku.career/p10-13.pdf 日本進路指導協会 2011年11月19日

参考・引用文献

枝廣和憲 2010「斜め（ナナメ）の関係」が高校生の自我発達に与える影響 日本ピア・サポート学会 ピア・サポート研究第7号

池本しおり 2001 ピア・サポートを高等学校に取り入れるための実践的研究 岡山教育センター

笠原嘉 1977 青年期－精神病理学から－ 中央公論社

中公新書
内藤勇次 1991 生き方の教育としての学校進路指導 北大路書房
永井智・松尾直博・新井邦二郎 2004 大学新入生に対するピア・サポート活動の試み 東京学芸大学紀要　1部門 pp81 ～ 91
中西信男・広井甫 1981 進路指導の心理と技術 福村出版　pp207
竹内和雄 2009 小中連携ピア・サポート活動～中学生の自己有用感を高め、小学生が安心できる小中連携ピア･サポート･プログラム～ 日本ピア･サポート学会 ピア・サポート研究第5号　pp37-44